

平成 27 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「誠実明朗」「自主創造」「友情協力」の校訓のもと、明るく健康で、自らを高め、他人を尊重する、人間性豊かな人格の完成をめざす。生徒と教職員との信頼関係をもとにした専門教育を通じて、勤労と責任を重んじ、幅広い技術をそなえた社会人を育成する。

1. 基礎学力と専門的な技能・技術を修得し、社会の中で主体的に生きる力を育てる
2. 協調性、規範意識を身につけ、周囲から求められる社会人を育てる
3. 地域社会での存在意義を高め、生徒が誇りをもてる学校づくり

2 中期的目標

1. 社会の中で主体的に生きる力を育てる
 - (1) 基礎的・基本的な学力の育成
 - ア 授業でのICT活用をすすめ、基礎学力の充実を図る
 - イ 授業改善を図るとともに、授業内容・授業形態の工夫により、確かな学力を身につけさせる
 ※ 進行率の大幅改善、卒業者数の拡大
 - (2) 資格取得を学習の核に据え、主体的に自己の将来を切り拓く能力を育成
 - ア 授業においても技能・資格取得を進め、学習意欲の喚起と、有用な技能修得を図る
 ※ 主要な資格について、毎年前年度を上回る人数が取得
 - (3) 在学中の就労を促進するとともに、多様な進路実現をサポートする
 - ア 未就労生徒に対し、個別指導と個別支援による就労促進をおこなう
 - イ キャリア教育、職業教育を充実させ、社会で自立できる力を育成する
 - ウ 正規就職を20名以上、年度内内定率100%を目標とする
 ※ 学校斡旋就職希望者数の拡大と内定率の向上
2. 周囲から尊敬される社会人を育てる
 - (1) 授業規律の確立
 - ア 組織的な指導体制を確立し、良好な環境と授業規律の確立を図る
 ※ 良好な学習環境を実現し、生徒の満足度を向上
 - (2) 協調性や社会性の育成
 - ア 魅力ある学校行事、部活動を振興し、学校生活の魅力を高め、集団活動への参加促進を図る
 ※ 出席率の大幅改善と中途退学の防止
3. 誇りをもてる学校づくり
 - (1) 地域連携を進め、学校への高い評価を獲得
 - ア 生徒による地域活動の実施、公開講座の実施など、地域から見える、特色ある学校の取組みの推進
 ※ 保護者アンケートにおいて、学校の特色ある取組みへの認知度で高評価を得る
 - (2) 広報活動の充実により、学校の取組みを広く周知
 - ア 学校ホームページの充実、地域自治会での広報などを積極的に展開する
 ※ 公開講座、学校見学会等への参加者の増加
 - (3) 人材育成により、優れた教育環境の提供
 - ア 生徒のニーズに合致した特色ある教育課程と優れた指導体制づくり
 ※ 教育課程の改革と意欲的な指導体制の確立

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 27 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見
学力の向上、授業改善に関して ・高評価(生徒) 「評価の仕方や基準を示している(76.0%)」 「学習で努力したことを認めてくれる(72.4%)」 「教え方を工夫している先生が多い(72.0%)」 「生き方について考える機会がある(70.7%)」 ・低評価(生徒) 「授業で発表する機会がある(59.2%)」 ・昨年度より5ポイント向上したが、生徒がより主体的となる授業の工夫を行う。 特色ある取組みについて	第1回(平成27年6月19日) ・教科書は、出版社によって大きく変わるものなのか?採択する際の決め手は? ・文化祭で、先生方が工夫を凝らして生徒に参加を促している姿に好感が持てた。 ・息子は本校に入り、積極的に学校生活を送るようになり、将来の事を真剣に考えるようになった。友達や先生と良好な関係を築けていることに安心している。 ・HPがリニューアルされて見やすい。生徒発信のホームページはすばらしい。 ・学校医を長くこの学校でしているが、年々生徒が素直になってきたと感じる。また、転籍生徒がすぐに馴染んでいるようだ。学校の雰囲気が良いのだろう。 ・夏休み明けの不登校を防ぐため、きめ細かな取組み・指導を行って頂きたい。 ・盗難については、絶対に許さないという雰囲気をつくるのが大切。盗難の発生

府立茨木工科高等学校(定時制)

<ul style="list-style-type: none"> ・高評価(生徒) 「他の学校にない特色がある(73.7%)」 「進路についての情報を知らせてくれる(73.4%)」 ・高評価(保護者) 「通知表が解りやすく工夫されている(96.4%)」 「特色ある教育活動に取り組んでいる(88.5%)」 ・低評価(生徒) 「環境、国際理解、ボランティアなどについて学習する機会がある(52.7%)」 「他の学校などと交流する機会がある(55.4%)」 「ホームページをよく見る(43.2%)」 ・専門科目など、特色ある学習や資格取得を通じての進路実現などキャリア教育の取組みが評価されている。 ・他校との交流の取組みなどが求められている。 <p>学校生活について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高評価(生徒) 「自分の学級は楽しい(75.0%)」 ・低評価(保護者) 「生徒が生き生きしている(76.9%)」 ・学校生活については、概ね高評価であるが、部活動をはじめ、学校の魅力を高める取組みを強め、さらに学校生活の充実を図る。 <p>学校の指導に関して</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高評価(生徒) 「先生は生徒の意見を聞いてくれる(74.7%)」 「先生は協力し合っている(77.0%)」 「先生は決まりや約束事を守っている(75.3%)」 「秘密を守ってくれる(75.7%)」 ・高評価(保護者) 「先生は子どもの評価を適切・公平に行っている(92.9%)」 「学校は保護者の相談に適切に応じてくれる(92.6%)」 ・教員が組織的に指導に当たっていることが十分伝わっており、今後も生徒の規範意識の育成や社会性の向上を図る指導にまい進したい。 	<p>は残念だが、警察にも連絡しているので、許さないという雰囲気を感じる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒は学校生活が楽しいのではないだろうか。生徒本人が、高校進学時に変わりたいという思いもあるのだろう。その思いを支援してほしい。 <p>第2回(平成27年10月30日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本校では問題はないが、常にコンプライアンスを意識した活動が大切。 ・人間教育の場をもっとつくり、活用していくことが大切ではないか。若者に夢がない社会を、学校としてどうすればよいのか考えていきたい。 ・最近クラブ活動行うことが学校として難しくなってきたのではないか?本校のクラブ活動の実態として、どのような成果があげているかを教えてほしい。 ・照明の点検、環境の整備を通じて、より安全安心な学校づくりに努めてほしい。 ・授業アンケートは教員のスキルをテクニカルに発展していくためのものだと思うが、スキルの向上のために仕組みを確立することが大切。 ・生徒はよく見ている。色々な教師がいると思うが、最終的には教師と生徒の良好な人間関係が授業に活かされ、アンケートにも反映されるのではないか。 ・中学校の訪問を通じて定時制高校を中学校に広く認知してもらい、定時制を進路選択の一つにするよう活動してほしい。 <p>第3回(平成28年2月12日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒アンケートの「学校に行くのが楽しい」という項目で、学校生活の初期の頃は「楽しい」と思ってもらえることが大切で、その中で規律を教えることが現実的ではないか。 ・茨木・高槻周辺の中学校を訪問した結果を活かしてほしい。 ・大阪府ではエンパワメントスクールなど、昼間でもきめ細かな指導を行う高校が誕生している。こういった状況の中で定時制の今後、存在意義というのをどのように考え、伝えていくのが大切である。 ・科目や知識を教えるだけではなく、将来自分が就く仕事への意識を高めていくことが、今の生徒達に必要なことである。 ・定時制の生徒は職業観が高く、コミュニケーションもとやすい。働くということが分かっているように思う。 ・昨今、自動車整備士の数が減少している。町工場では人手不足が囁かれているが、そこに就職を勧めるのも一つの方法である。 ・「会社」で就職するのではなく、「仕事」で就職する指導も必要と感じる。
--	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 社会の中で主体的に生きる力を育てる	<p>(1) 基礎的・基本的な学力の育成 ア 授業でのICT活用をすすめ、基礎学力の充実を図る</p> <p>(2) 資格取得を学習の核に据え、主体的に自己の未来を切り拓く能力を育成 ア 授業においても技能・資格取得を進め、学習意欲の喚起と、有用な技能修得を図る</p> <p>(3) 正規就職の拡大 ア 個別指導と個別支援による就労指導</p>	<p>(1) ア①パッケージ研修の取り入れとともに、開講科目の半数以上の授業でICT活用授業を実施し、授業改善をすすめる ② 授業において、繰り返し小テストを実施し、基礎の定着をめざす</p> <p>(2) ア①溶接技術、CAD、計算技術等、授業内容と関連した資格取得に関わる知識・技能の指導を充実させる ② 資格取得をめざした講習・個別指導を実施し、生徒個別の支援をおこなう</p> <p>(3) ア①キャリアコーディネータ等との連携による求人開拓、個別指導を継続的に強化し、卒業時に正規就職できるよう支援をおこなう</p>	<p>(1) ア①電子黒板機能・視聴覚教材を活用した授業の実施。(ICTを用いた授業が実施できているという生徒評価をH26年度の70.5%から80%以上とする)</p> <p>② 各教科での繰り返し小テストを実施し、単位取得者の増加をはかる。(授業が楽しく分かりやすいという生徒評価をH26年度の61%から70%以上とする)</p> <p>(2) ア①授業の一環として検定を実施、主な資格取得数の増加をはかる(資格取得者数45名以上)</p> <p>② 3級自動車整備士試験受験者、合格者の増加(受験者H26年度の2名から6名以上、合格者3名以上)</p> <p>(3) ア①生徒のニーズに合致した求人開拓 ② 正規就職希望者20名、年内内定率70%以上とする ③ 将来のキャリアを見通した進学の実現。進学志望生徒の合格率を100%とする</p>	<p>(1) ア①「ICTを用いた授業が実施できている」という生徒評価は73.0%となった。(△) ②「授業が楽しく分かりやすい」という生徒評価は63.2%となった。(△)</p> <p>(2) ア①資格取得者数は55名を超えた。(◎) ② 3級自動車整備士試験受験者は4名、合格者はのべ2名となった。(△)</p> <p>(3) ア①求人数は就職希望生徒の総数を上回った。(○) ② 正規就職希望者は14名、年内内定率90%であった。(○) ③進学志望生徒の合格率は100%となった。(○)</p>

府立茨木工科高等学校(定時制)

<p>2 周囲から尊敬される社会人を育てる</p>	<p>(1) 授業規律の確立 ア 組織的な指導体制を確立し、良好な環境と授業規律の確立を図る</p> <p>(2) 協調性・社会性の育成 ア 学校生活の魅力を高め、集団生活への参加促進を図る</p>	<p>(1) ア① 全教職員による生活指導体制を確立し、指導事例に即応し、良好な学習環境を維持する</p> <p>② 規範意識、社会性育成のための講座等の指導機会を適宜設け、主体的に社会人としてのマナーを獲得させる</p> <p>③ 高校生活支援カードを活用し、家庭および中学校・外部機関と連携を進め、きめ細かい支援を充実させる</p> <p>(2) ア①部活動を活性化、注目される成果をあげ、生徒の活動参加を促す</p> <p>② 秋季発表大会などの成果発表機会に積極的に参加し、生徒の能力を引き出す</p>	<p>(1) ア①授業時の問題事例発生を抑止する。(生徒指導に納得できるという生徒評価を H26 年度の 71.5%から 80%以上とする)</p> <p>② 欠席の多い者、中途退学者の減少(欠席の多い生徒 30 名以下、年間退学者平成 26 年度 21 名を 15 名以内)、H26 年度に大幅に減少した懲戒件数(12 件)を維持する。</p> <p>③ 中学校・外部機関との連携強化拡大(中高連絡会などの参加を 20 校以上とする)</p> <p>(2) ア①部活動参加生徒を増加させる(入学生徒の 20%以上をめざす)</p> <p>② 秋季発表大会の生活体験発表、舞台発表に 3 名以上出場する</p>	<p>(1) ア①授業時の問題事例発生はなかった。「生徒指導に納得できる」という生徒評価は 72.4%となった。(△)</p> <p>② 欠席の多い生徒は 25 名、年間退学者は 14 名となった。懲戒件数は 12 件である。(○)</p> <p>③ 中学校訪問を高槻・茨木の全中学を対象に行い、26 校訪問した。(◎)</p> <p>(2) ア①部活動活性化の結果、大阪府定通実業大会で総合優勝の成績を収めた。(◎)</p> <p>② 秋季発表大会の生活体験発表 1 名、舞台発表に 3 名、写真展示に 2 名が参加した。(○)</p>
<p>3 誇りをもてる学校づくり</p>	<p>(1) 地域連携を進め、学校への高い評価を獲得 ア 生徒による地域活動の実施、公開講座の実施</p> <p>(2) 学校の取組みを広報 ア 地域での広報を積極的に展開する</p> <p>(3) 優れた教育環境の提供 ア 生徒のニーズに合致した特色ある教育課程と優れた指導体制づくり</p>	<p>(1) ア① 生徒による学校周辺巡回清掃等の地域連携活動を実施</p> <p>② 夏休み工作教室を、希望があれば出張教室にするなど拡大・充実する</p> <p>③ 周辺地域公共機関への実習作品の寄贈をすすめる</p> <p>(2) ア①学校行事を、保護者・地域に公開し、広報を実施する</p> <p>② 保護者・生徒のニーズに合致した学校ホームページの改善をすすめる</p> <p>(3) ア①工業系科目の充実を図り、生徒意欲を持って取り組める教育課程の再編成をすすめる</p> <p>② 授業公開、研究授業参加、専門研修派遣を実施し、授業力の向上と、指導内容の刷新を図り、優れた学習環境を実現する</p> <p>③ 系列会議で生徒状況の把握、授業の工夫の交流などを進めてゆく。</p>	<p>(1) ア① 地域連携活動を年間通じて実施する(年間 3 回以上) (地域や保護者とかかわる機会があるという生徒評価を H26 年度の 58.5%から 70%以上とする)</p> <p>② 地域小学生対象の工作教室を HP で公募の上実施する(参加者数のべ H26 年度 16 名から 20 名以上とする)</p> <p>③ 地域機関への作品寄贈を 3 件以上実施する</p> <p>(2) ア①体育祭、文化祭への保護者などの参加を増やす。(のべ 50 名以上) (授業参観など学校行事に参加したという保護者評価を H26 年度の 50%から 60%以上とする)</p> <p>② HP の更新を月 2 回以上(年 48 回以上)行う。またツイッターでの情報発信を行う</p> <p>(3) ア①教育課程の見直しを進め、現指導体制の再編成の実現(本校には他校にない特徴があるという生徒評価を H26 年度の 78.3%から 80%以上とする)</p> <p>② 授業公開の実施、研修への派遣(3 名の研修派遣)。パッケージ研修を実施する</p> <p>③ 若手教員を中心とした研究授業を年 2 回以上実施する。</p>	<p>(1) ア① 「地域や保護者とかかわる機会がある」という生徒評価は 59.5%となった。(△)</p> <p>② 工作教室は対象校の行事の関係で少数にとどまった。(△)</p> <p>③ 生徒による作品寄贈は 10 点を超えた。(◎)</p> <p>(2) ア①行事への保護者の参加は概ね目標を達したが、「授業参観など学校行事に参加した」という保護者評価は 42.9%となった。(△)</p> <p>② HP の更新回数は年 100 回を超え、行事ごとにツイッターでの情報発信を行った。(◎)</p> <p>(3) ア①「本校には他校にない特徴がある」という生徒評価は 73.7%となった。(△)</p> <p>② 教育委員会「育成支援チーム」事業を導入し、規定の 3 回を超え、4 回の研修を実施した。(◎)</p> <p>③ 若手教員の研究授業の他、初任者の公開研究授業を 2 回実施し、合計 5 回実施した。(◎)</p>